

世界の平和を望みつつ

～「世界バプテスト祈禱週間」を考える～

日本バプテスト女性連合

日本バプテスト女性連合/東京北キリスト教会

米本裕見子

●世界の平和を望みつつ

コロナが始まった2年半前、慣れないオンラインを用いた日本バプテスト女性連合（以下、女性連合）の実行委員会で悩んだ末に決まった標語「常に祈る」の副題が「世界の平和を望みつつ」でした。これが今、一時も忘れられない重い祈りの課題となっていることに驚いています。昨年2月にはミャンマーで国軍によるクーデターが、今年2月にはロシアがウクライナへ軍事侵攻。悲惨な事態がこれほど続くとは想像もありませんでした。さらにアフガニスタン、シリア、パレスチナ、コンゴなど、世界中にはあまり報道されない多くの紛争・戦争があり、人々の大切ないのちが犠牲となっています。

世界で唯一の戦争被爆国であるこの国は、憲法9条によって77年間戦争を放棄してきましたが、この間も間接的には諸外国の紛争や戦争に関与してきた自己矛盾とも無縁ではありません。今の世界情勢に乗じてますます「戦争のできる国」に近づこうとしている風潮を憂います。一人は小さく弱くても、平和を願い祈りの輪を広げることを諦めずにいたいと願います。

●女性連合の歴史と国外伝道の構造

女性連合が世界の平和を祈りつつ推進してきた「世界バプテスト祈禱週間」。その献金額は少子高齢化による会員の急激な減少に比例し、この20年減少し続け21年度の献金総額は2800万円を割りました。さらに担い手不在やジェンダー的観点などから「女性会」を解消する教会も増えており、毎年、会員約100名、機関誌『世の光』購読数150冊近くが減少し、女性連合の存続が非常に厳しくなっています。

ここで少し歴史を振り返りますと…、女性連合は1920年「婦人会同盟」が設立された当初から「世界伝道」を使命としてきました。米国南部バプテストから来られた宣教師「夫人」たちの祈りと導きによって、当時、教育も参政権も与えられなかった女性たちは教会に集い、福音に触れ心は世界に開かれていきました。

第2次大戦後、日本バプテスト連盟（以下、連盟）の「婦人部」として「世界バプテスト祈禱週間」の推進を担い、連盟派遣の宣教師たちを支えはじめました。その後1973年、連盟の機構改革にともない、婦人部は連盟から切り離され「日本バプテスト婦人連合」（のちに女性連合）として出発しました。当時、連盟からの切り離しに少なからず戸惑い反発した女性たちでしたが、自らのリーダーシップのもと希望をもって

「自主自立」し、引き続き「世界伝道」を使命とすることを選び取りました。このことは連盟に期待される働きとして、また連盟派遣宣教師（働き人）たちを支え、世界の福音宣教に仕えるという純粋な信仰が女性たちの心を一つにしてきたといえるでしょう。その先達の方々の篤いスピリットに心から敬意と感謝を表します。

女性連合に加盟する女性たちは、女性連合の会員であり連盟のメンバーである、という2つのアイデンティティをもつため、構造的なジェンダー課題があっても意識しにくいものとなっています。女性の連盟理事や、連盟総会などで女性の代議員たちは、連盟のメンバーとして発言する機会がありますが、それは「女性連合」のメンバーとしてではありません。女性連合が自主自立した信徒運動団体となった後も連盟との協約などがない状態で、連盟の国外伝道の意思決定プロセスに参加することができないまま、50年間「世界バプテスト祈禱週間」の推進と、その献金の殆どを連盟に捧げるという役割を担ってきました。ここにジェンダーに基づく不平等構造が見えるのではないのでしょうか。今の時代、意識して、改善していく必要があると感じています。そして、これまでの尊い働きの歴史から学びつつ、今ある「当たり前」を絶対化せず、自由でありたいと思います。

●協働による世界宣教へ：対等なパートナーとして

この時代、なぜ女性たちが集まるのか。女性連合の意義と活動・体制が問われています。「女性」たちは数の上ではマジョリティ（多数派）でも社会的にはマイノリティ（少数派、抑圧される側）におかれています。「女性」たちが集い、励ましあい、学び、気づきあうことは、ますますこれから大切なことと確信しています。

「協働」とは対等なパートナー関係があってこそ。女性連合は、自主自立の団体として連盟と良い協働を進め、これからの世界宣教をどのように持続可能な形で協働し進めていけるか、共に考えていきたいと願います。連盟も女性連合も時代の転換点に立つ今、新たに生まれ変わる創造の時です。ジェンダーに基づく不平等構造を払拭し、誰もが福音によって解放され自分らしく生きるところに本当の平和への働きが実現していくことでしょう。ジェンダーに限らずあらゆる差別のある所に平和はなく、平和のある所に差別はありません。隣人とともに今ここからこの先へ。神の新たな創造と導きに信頼して希望をもっていきたいと願い祈ります。世界の平和を望みつつ。